

聖書の眞理

第六十九號

七月號

主筆 江原萬里

現今ドイツの宗教争とユダヤ人

自由と目的 現代の自由 形式的自由と

自由の内容 基督者の自由

鎌倉講演

英國の清教徒

イエス・キリスト

審判主としての人の子(中)

イエス傳について

奴隷道即王道

柏木通信

身邊漫筆

主筆より

江原萬里

江原萬里

江原萬里

山田幸三郎

齋藤宗次郎

昭和八年七月一日發行

現今ドイツの宗教争とユダヤ人

今から三百年の昔、ドイツはプロテスタントとカトリックとの宗教争のため三十年の長い間戦亂の巷となり、國はすかつり荒廢に歸した。歴史は繰返す。今又ドイツは三つの宗教の激烈なる争のために惱まされて居る。その第一はルーテルの國粹主義に源を發する國民教、第二はカトリック教、而して第三は共產教。

ヒットラーの國民主義は新教徒であるドイツ國民大多數の歡迎するところである。彼等の一派は外は世界諸國に對してドイツの名譽獨立を全うせんとし、内は國粹を以て國內の統一を完成しやうとして居る。それがため國民中三分の一を占めるカトリック教徒の組織する政黨なる中央黨とユダヤ人が主である共產黨に對して激しく戰つて居るのである。カトリックはロマの指揮に従ひ、共產黨はモスコの指令を仰ぐ。共にルーテル以來のドイツ魂に反するからである。

最近ヒットラー一派のユダヤ人排斥は世界の問題となつた。我が國に於ても各方面からユダヤ人同情の聲を聞く。然し乍ら、ドイツ人自身の立場に立つて考へる時、

事は決して容易ではない。

ユダヤ人は紀元七十年ロマのためエルサレムを陥れて以來、國を失ひ世界流浪の民となつた。それ故彼等程の世界主義者はなく、然かも又彼等程の頑固、強烈な自民族粹主義者もない。今に至るまで何處に住むも他の國民と同化しない。それがため、彼等の父祖ヤコブが子らと共に饑饉に際してエジプトに避難した時以來、何時でも又何處でも同じ運命を繰返へして居るのである。曰く、最初はその國民に歡迎、次で冷淡、最後に迫害。

彼等は自ら誇るやうに確に優秀なる民族である事を疑ふことは出来ない。幾度か慘憺たる迫害を受け乍ら、尙独自の民族性を維持し、少數民なるに拘はらず古來世界的大人物を多數輩出し、今尙輩出しつゝある。又彼等程の金持は他になく、彼等程の多くの浮浪人もない。資本主義と共產主義とは共に彼等の産物である。それ故諸國民から歡迎せられ、恐れられ、憎まれるのである。彼等の將來こそ世界人類の大問題である。

私は思ふ。若しユダヤ人が歐洲を追はれて續々日本に移住し來た時、我等は果して之を歡迎するか否かを。そもユダヤ人を基督者にする者は誰ぞ。

聖書之眞理

第六十九號

昭和八年七月一日發行

自由と目的

ピバン教授は云ふ。各人の信仰、學說の自由は決して之を迫害し、壓迫すべきではない。然し乍ら、或る特定の目的を達成するために建てられた協會、學校、教會等にて其の目的達成を妨げる信仰、信念、學說、行動は之をそこから排斥するのは已むを得ない。例ば教會で宗教を否定するマルクス主義を奉ずる牧師の如き之であると。

各人の自由は飽くまで尊重すべし。されど志相同じからざれば共に歩まない。問題は其の志如何である。遠大なるあり、偏狭なるあり、正しきあり、不正なるあり。

現代の自由

現代の自由はルーテルの宗教改革から來た。彼が人は誰でも信仰だにあらば、自己の欲するままを行ひ、然も尙神は之を義しと認め給ふと云つた時、近世史は創まつたのである。こゝに自由が世に顯はれた。自由が人類進歩の歴史の原動力となつた。

然かも此の自由はキリストを信する者に對して神が與へ給ふ自由である。信仰とはキリストに己が全身體、全靈魂を委ねてその奴隸となることである。然かも神の御獨子と一體となつて全宇宙の嗣子となることである。

然るに現代人は此の信仰を捨て、恣意を以て自由とするに至つた。彼等の叫ぶ研究の自由、パンの自由、結婚の自由等、現代の自由主義は人を罪の奴隸とするものである。之に對して律法の奴隸にしようとするファシズム、コムミュニズムの起るは當然である。されど眞の自由人類進歩の源泉は只キリストを信する信仰にのみ在る。今全世界の深刻極りなき惱の原因は此の棄信から來た。

形式的自由と自由の内容

自由は二種ある。第一は形式から云ふ自由であり、第二は内容から云ふ自由である。

第一の形式から云ふ自由とは、己れの意志以外、他の何者からも強制を受けず、只己が意志を行ふの自由である。其の動機、其の目的が善であると悪であると問はない。他の何者にも拘束せられず、妨げられず、自から自由である事を云ふのである。

反之、第二の内容から云ふ自由とは、前に述べた形式的に他の何者にも束縛されないで、自己の欲するまゝを行はうとするその意志の動機、行動の目的が善であり、悪でない事を云ふのである。即ち、悪しき事を行はせやうとする罪の束縛は勿論、善き事を行はせやうとする外からの律法の強制すら排除して、自分の心の中から、自發的に罪の束縛を脱し、律法の命するところを行ふの自由である。己の欲するところを行ふて規矩を踏えざる此の自由は、先づ第一の形式的自由を必要とする。

基督者の自由

ルーテルは其の名著『基督者の自由』に於て、神から與へられた基督者の有する自由を説明して云つた。

基督者は他の何人に對しても自主の者であり、同時に何人にもその僕である

と。基督者は全く自由であつて何人に對しても、然りと。王侯、貴族、富者に對しても、國家に對しても、その法律に對しても自由である。自主の者である。その奴隸ではない。然かもその他の一面に於て基督者は凡ての者に對してその下僕である。イエスは教へ給ふ。『汝らの中に大ならんと思ふ者は、汝らの役者となり、首たらんと思ふ者は汝らの僕となるべし。斯のごとく人の子の來れるも事へらるる爲にあらず、反つて事ふることをなし、又おほくの人の贖償として己が生命を與へん爲なり』と。基督者は何人にも強制せられずして、自發的に隣人又國家の僕として事ふる者である。彼は『律法の僕』にあらず、『罪の僕』にあらず、然かも尙『義の僕』である。

鎌倉講演 (三)

江 原 萬 里

第三講 英國の清教徒

私は我が國の眞髓である武士道的精神、日本魂について語りました。我が國をして今日あらしめたものは實に此の日本魂であり、之は鎌倉時代に育成された事、今我等が遭遇してゐる國難に際してよく之を克服し、今後我等が世界的に偉大なる貢獻をなし得るものは、此の日本魂を以て他にない事を語りました。而して此の父祖傳來の日本魂を保存し、發揮し、之を世界的となすものが私共の信するところの基督教であると申しました。

私共の信する基督教は少なくとも以下のものであつてはなりません。我等は決して西洋人の基督教を信する者ではありません。日本人が日本人として我等の内にあつる日本魂を聖め、高め、之を世界大にする基督教を信じ

之を宣べるものであります。若し基督教に此の偉大な力がないければ我等は之を信するに足らないと思ひます。

一體基督教に此の力があるでしやうか。基督教は我が國民をして今日あらしめた父祖傳來の日本魂を聖化し、之を世界大にし、吾に目前の國難を打開せしめるのみならず、眞實東洋諸國民の指導者となり、太平洋の平和を確保せしめ、世界歴史に輝かしい事績を載すことを得せしめるでせうか。『日本の正義は滿洲を救ひ、支那を救ひ、東洋を救ひ、世界を救ふ』に至らしめるでしやうか。私は今議論を以て之を證明しやうとしません。議論はどんなに精密でも事實に對しては木刀程の切れ味もありません。それ故私は古來聖書的基督教が諸國民をどんなに高め、聖めた事があるかを事實によつて申上げ度い、而して此の事實は古來澤山ありますが、其の中私共にとつて最も興味のあるのは英國の清教徒の歴史であります。何故此の清教徒の歴史が私共に限りない興味を起させるかと云ふに、それは前に申ました日本武士の育成された我が鎌倉時代によく似た處があるからであります。

七百年前の鎌倉時代に日本の今日世界的となる基礎が出来ましたやうに、三百年前の清教徒時代に英國國民の國民性は改造され、アングロサクソンが今日、日没を見ないと云はれる世界的領土を獲得し、世界的大發展をなすに至つたその基が据えられたのはその類初の第一であります。鎌倉時代は皇室から政權が武家に移つたのみでなく承久の亂には三上皇を遠方にお流し申しましたが、それに似てそれよりもつと大きな革命が英國に起り、爲めに英王チャールス一世は斷頭臺の露と消えました。之れ類初の第二であります。第三に鎌倉時代は北條泰時のやうな武將にして且つ偉大なる政治家が之を代表するやうに、英國の清教徒時代の精神を代表するもの亦、天才的武將にして且つ偉大なる政治家であつたオリバー・クロムウェルであります。

かやうに兩者類似してゐますが、只一つ兩者の間に顯著なる相違があります。それは一方は聖書がその國民の指導精神であつた事であり、これ故に此の兩者を比較研究して、聖書がどんなに偉大なる國民を造るかを研

究し得ます。而して若し此の聖書が我が鎌倉時代から養成されて來た日本魂に入り來た時、それが今後どんな光輝を放つであらうかを想像し得るのであります。

國民性の改造

私は先づ第一に私の云ふ基督教、即ち聖書がどんなに英國の國民性を改造したかを申上げ度くあります。それについて書いた最も興味深い書物はグリーンの *The Short History of The English People* (英國國民小史) であります。グリーンはそこでかやうに述べて居ます。

エリザベスの御世の中期と長期議會の開かれた頃、(清教徒政治の開始)とを分つ期間(一五八〇—一六四〇)に英國に起つたもの以上の道德的變化は如何なる國にも起つた事はない。英國は一つの書物の民となつた。それは聖書である。

聖書は當時どの英國人にも知られた唯一の書物であつて、教會で讀まれ、又家庭で讀まれた。そして到るところ、その言は、慣習で聲になつて仕舞つてゐ

ない耳に落ちた時、驚くべき熱誠を焚きつけた。：今日宗教新聞、冊子、講演、傳道報告書、説教によつて生ずる全道徳的效果が、當時聖書だけによつて生ぜしめられたのである。而してどんなに冷靜にそれを檢べて見ても、かくして擧げ得た効果は驚嘆する外はなかつた。一つの支配的勢力が人間活動の上に臨んだのである。移ろふ世の生活のための活動力は宗教の精神によつて捉へられ、集中され、確乎たる一つの目的に向けられた。生活につき又人につき、新しい考が古きに代つた。道徳上又宗教上新らしい衝動が各階級に弘がつた。

然らば英國國民は聖書に由つてどんな新しい人生觀を得、どんなに國民性が一變しましたか、實に此の時英國國民に、人間の一番貴ぶべきものは此の世の智慧ではない又個人的に偉くなることではない。まして金をもうけて一生を安樂に暮すことではない。神に對して義しくある事、而してカルビンが云ひましたやうに、神の御意を知り、それを實行する事、即ち、正義が人間として一番貴

いと云ふことの確信が生じたのであります。當時彼等は主の祈を本心から祈るやうになりました。

天にいます我等の父よ、

願はくば御名の崇められんことを、

御國の來らんことを、

御意の天の如く、地にも行はれんことを。

(マタイ傳六・九・一〇)

之が彼等の一番深い本心からの祈となつたのであります。その家庭、日々之の業務、その政治、その遊戲に至るまで一時此の精神で一貫しました。彼等は嘗に宗教に於てのみならず、現實の政治に於ても神の國の出現を期待したのであります。

樂しくある事よりも、賢くある事よりも、偉くある事よりも、何よりも先づ神に對して義しくある事、これが清教徒の根本的精神であつたのであります。此の事を理解せずしては、英國國民が十八世紀以來産業上世界の指導的地位を獲得し、海外に雄飛し、遂に今日に至つて日没を見ないと云はれる世界帝國を建設した根本原因を把握す

る事は出来ません。

清教徒の此の正義第一主義、何よりも先づ神に對して義しくあらねばならないと云ふ根本精神が彼等をして自由を熱愛せしめ、又人生の種々なる艱難に能く耐え忍ぶ不拔の意志を養成しました。之が英國民をして産業上諸國民の指導者たらしめたのであります。由來英國民は商賣は極く下手な國民であり、決して伶俐に立ち廻る事の上手な民族ではありません。鈍重であります。然るに此の鈍重な國民が却つて産業上他國民に卒先して大飛躍をしたのであります。現代の英國が出した最大の經濟學者と稱せられました故マーシャルは此の事を明に認め、英國の地理的位置や、石炭と鐵とに豊富である事よりも、英國民の「堅固なる意志、自己決斷力、徹底的なること、誠實、而して自由を愛する國民性」が英國今日の世界的位置を築き上げたのだと云つて居ます。

又獨乙の有名なる經濟學者リストも亦、其の名著「國民經濟」にて「英國の富は國民の自由と正義との熱愛から來た」と云ひ、その海外發展を論じて、由來航海業は

最も個人的勇氣、堅忍、冒險心を必要とするが、之は自由の精神がなくては起らない。英國民が海外に雄飛するに至つたのは此の自由の精神の結果であると云ひました。然らば此の自由の精神は何處から來ましたか、我等の本當の自由なるものは信仰に由つて神に義人なりと認められて始めて感ずるものであります。即ち清教徒の信仰、何よりも神に對して義しくあらんと欲求は知らず知らず國民を世界大にしたのであります。「先づ神の國と神の義とを求めよ、さらば衣食住の必需品は之に加へらるべし」であります。英國の植民史を讀んで誰でも氣がつくことは、彼等の海外發展は豫め一定の計畫に基いて行はれたものでない事であります。最近經濟的活動を個人の自由に放任する事の禍害を認め、しきりに産業五ヶ年計畫とか、産業の合理化とか、統制經濟とか、一定の社會的計畫の下に各個人の行動を規律させやうとする意見が盛であります。然し乍ら人間の活動と云ふものは決して豫定の計畫通りに行はれるものではありません。又そうする事が最も善いものでもありません。我等の生涯に

は度々思はぬ事件が勃發します。そして我等は之に對して目前の必要に迫まられ、右すべきか左すべきかを決する事が殆ど常であります。大事は大ていこれで決定されます。此の時、我等がそれを決するに當り、何よりも正義に由るか、或は自己の都合に由るかに従つて、其の結果に大なる相違が生ずるのであります。

英國民の海外發展の最も顯著なるものは、かの百人の順禮父祖の北米移住であります。當時國王が清教徒の信仰を以て團體に反するものとして之を迫害しましたため、彼等は信仰の自由を得、心から義しく神に仕へるため、メーフラワー號に乗つて大西洋を航し、北米マサチューセツツの寒地に移住しました。彼等の半數は物資缺乏と寒冷と病氣とのために一年を経ぬ間に死にました。残つたものは僅かに五十人の男と女と子供だけ、然かも之が現在の北米合衆國の建國の基礎を造つたのであります。『最愛の國なる天に眼を向け』て地上の榮華を求めなかつた彼等が、今は何事にも世界一と誇る地上の國の先祖となつたのであります。彼等は常に北米合衆國の國粹的精神

となつたのみではありません。その子孫の深い敬虔は英國は勿論のこと、歐洲大陸諸國に強い感化を與へました。此の事は少しく教會史を讀んだ者は何人も知るところであります。

英民族がカナダに南アフリカに印度にオウストラリヤに其の他世界各地に植民した動機は勿論これ程高尙なものではありませんでしたが、其の頃同じやうに世界各地に發展し始めたフランス人と競争して之に勝ち、遂に其の地の主人となり得たのは聖書に基く此の信仰の賜物であります。

現代印度は不穩でありまして、英國も之には手こずつて居ますが、昨年英國で最初の印度總督ワーレン・ヘーディングスの生誕二百年祭が行はれました。印度が完全に英國領となつたのは彼の力でありました。然るに彼は總督在任中、土人を酷使し、利益を搾取したとの非難を受け、之がため英本國の議會で大問題となり、エヂュモンド・パークが大雄辯を振つて彼を弾劾しました。此の事はマコーレーの麗筆に鮮かに書かれて居ます。

ヘースチングスは結局無罪となりましたが、此の弾劾があつて以來、英國人に一つの新しい自覺が起りました。それは神と人との前に、英國民は數百萬の頼るところを知らない民の後見人たるべしと云ふ事だと歴史家トラベリアンが云つて居ます。前に述べました史家グリーンも亦、『一般に不公平と政治上の缺點に對して最も貧しい英國人が獲得せる保護は、最も貧しい印度人も亦得なければならぬと決心した』と書いて居ります。政治上の無能力者に代つて政治をするのが『白人の負擔』

White mens Burden だとの考が、彼等をして益々世界に發展せしめたのであります。而して今の印度は之に對して抗議して居るのであります。

目下我が國は國際聯盟を脱退する事にきめましたため二年の後、南洋諸島の委任統治領がどうなるかが世界の問題となりました。此の國際聯盟規約第二十二條の委任統治の精神は實はその起原を英國人の上記の未開人後見人主義から發して居るものであります。

英國民の發展の歴史には、勿論澤山の汚點があり、我

等東洋人は決して其の罪惡を看過するものでなく、我等は決して彼等の模倣者であつてはなりません。然し乍ら其の昔はスペイン、ポルトガル、フランスの諸國民から輕侮されて居たものが、近代に至つて之等を凌駕して世界産業の指導者となり、世界的國民となり得たのは、其の根底に於て、前申しました通り、清教徒時代に英國民の國民性が聖書に由つて改造され、他の諸國民に比してより以上に信仰が生活の基本となり、正義が人生の目的となつたからだと思ひます。

此の事を深く究める時、現在我等日本の基督者が本當に堅く信仰に生きる時、後世我が日本國はどんな大國民となるでしやうか。それ故私は今少し詳しく清教徒時代に其の代表者であるクロムウェルについて語り度くあります。

神とその民

私は英國清教徒時代が我が鎌倉時代と相似た第一の點即ち、如何に此の時代に英國の國民性が改造され、今日

の大英國の基礎を作つたかを述べ、聖書がどの位偉大な國民を作るかを説きました。

次に私は鎌倉時代の承久の亂と相似て更らに深刻なる第二の點、クラーレンドンが云ふところの大逆事件、即ち此の時代に起つた革命について語り、清教徒はどんな考を有つて働いたかを述べ度くあります。我が承久の亂に鎌倉武士の精神が知られるやうに、此の革命に清教徒の精神が顯はれたのであります。三上皇を御流し申した承久の亂が我が國の歴史上稀有の不祥事であつたやうに國王を死刑にした此の革命はそれ以上に英國史上大不祥事でありました。然し乍ら、此の革命に由つて英國民は淨化されたのであります。此の革命は其の後生じた佛蘭西の大革命、近くは露國の社會革命と全く異なつた一つの顯著なる特色があります。

當時の英國王チャールズ一世は賢明なる馬鹿と云はれてゐます。彼の聰明は如何なる忠諫をも排除し得る聰明でありました。此の王は自分の身命を賭して擁護しやうとしたものが一つありました。それは英國の王權は神か

ら授かつたものであつて、人民は赤子が父母に頼るやうに何の議論なく只王に服従しさへすればよいと云ふ所謂帝王神權説であります。若し王が本當に賢明な王ならば形式的にそれを兎や角云ひ張る代りに、我が皇室のやうに本當に人民を赤子の如く愛せられ、ば人民は之に説服したのでありませう。然るに王は人民がどの位苦しんでゐやうが、人民中どんな考が新に起つてゐやうが頓着なく全く現實を超越して、遮二無二自分の思ふ通りに人民を制御しやうとしたのであります。

此の帝王神權説を一般國民に信奉せしめるのに最も好都合なものは、當時の國立教會であります。王は神の子キリストが選び給うた使徒から教權が連綿として傳つてゐると云はれる此の教會の首長であり、英國民は何人も此の教會に入り、その定めた禮拜の儀式に従つて禮拜しその公定の教義を信奉せしめられたのであります。而して此の教會に服従しないものは重い罰金を課せられ、或る者は兩耳と鼻とを切り落され、首枷足枷をはめられて市場にさらされました。

それ故、當時新に英國に生じた最も聖書的、最も精神的であつて、表面の儀式をきらひ、心の中で神と義しくあらうとする清教徒は之に抗議し、此の爲め國體に反するものとして甚だしく迫害されました。彼等は熱烈な愛國者でありましたが、それ以上に神を愛しました。それ故彼等はその信仰を維持しやうとせば到底國に居られないので信仰の自由を求めて海外に移住する者が多数に上りました。前に述べた順禮父祖は最も顯著な例であります。ハムブテンもクロムウエルも亦一時北米に移住しやうとしました。かやうなわけで早晩革命の起るのは必然となりました。

王の政治はかやうに亂暴でありまして、その爲め財政も亦非常に窮乏しました。それ故王は種々の名目で人民から税を徴収しました。元來英國の憲法によれば、王が人民から新規に租税を徴収するには、人民の選出した議會の協賛を経なければならぬ事になつて居ます。然るに王は議會を無視し、勝手に課税しましたから、人民は塗炭の苦しみを嘗めました。

之がため議會はたまりかね、王に抗議し、今少し國民に信仰の自由を與へられる事と、課税には必ず議會の古來の權能を尊重せられ度い事とを申出でました。然るに王は議長を捕へて終身倫敦塔につなぎ、議會を解散して議會なしに勝手な政治をしました。王の財政は益々窮乏した。それ故王は己を得ず、議會を召集しました。之が史上有名な長期議會であります。(前に掲げましたグリーンの英國史の通りにエリザベス女王の中程から此の長期議會開催までに英國は全く聖書の民となつたのであります。之が清教徒であります)。

此の議會の大部分は清教徒が占めました。彼らは王に議會の權能を尊重するやう、又清教徒の信仰の自由を認めるやう強い要求をしました。そこで王は五領袖を引執らへ、クーデターを行はふとしましたが失敗し、遂に王は議會に對して戰端を開き、武力に訴へて人民の宗教上及び政治上の自由を抑壓しやうとしたのであります。

王軍と議會軍との戰爭は最初王軍が優勢でありました何しろ假令王はよくないとしても、立派な傳統的主義あ

り、又王に對して武器を執つて戦ふことは國民の多數が躊躇するところであります。且つ王軍には貴族あり、地方の豪族があり、又軍人中には獨乙の三十年戦争に出かけて實戰の經驗があるものも少なくありませんでした。若し王が誠實であり、自分の爲めに働いてゐる者の信頼を得、又議會軍に對しても權謀術數を弄しなかつたならば、王軍は多分議會軍を壓倒したかも知れませんでした。然るに王はその人でなく、彼は頑迷なる專制主義のため何者をも犠牲としました。

之に反して議會軍には唯一つ驚嘆するに足るものを有つてゐました。それは清教徒の神に對する本當の信仰であります。否それを一身に具體化したオリバー・クロムウエルがありました。多分王軍の方では王が誠實であり、議會軍の方にクロム、ウエルの信仰がなかつたならば、爾後英國の特色ある歴史はなかつたと思ひます。

始め議會軍は王軍のため連戦連敗しました。之を見てクロムウエルはハムブデンに云ひました。

名譽あるゼントルマンと戦ふのに(あなたの部下のや

うな) そんな酒場の給仕や、商店の小僧では駄目だ
宗教家を集めなさいと。

ハムブデンは善い考だが實行不可能だと云つて願ひませんでした。然るにクロムウエルは云へば必ず實行しました。彼はハムブデンが不可能とした軍隊を獨力で作り上げました。之が有名な鐵側隊であります。之は此の軍隊が守つて居る側は鐵側であつて之を打ち破ることは出来ないといふ意味で敵軍が名づけたのであります。議會軍が王軍のため英國内到处で破れた時、獨りこの鐵側隊だけが連戦連勝しました。そして次第に大をなし、之が中心となつて議會軍を再組織し、遂に王軍をして再起の力を奪つて仕舞つたのであります。

クロムウエルは此の鐵側隊を組織するに當り、彼の精神を充分に理解し、彼と同様猛烈なる信仰をもち、自分は何のために戦ふものであるかを善く自覺した者のみを集めました。それ故彼の軍隊は一ツの教會とも云ふべきものであります。或る聯隊長が、クロムウエルの任命した大隊長は傳道師にはよいが軍人には不向だとこぼし

ましたのに答へて彼は云ひました。「わしは本當にそう思つて居る、最もよく祈り、又説教する者が一番よく戦ふものだ。キリストに在る神を知る知識位、勇氣と確信を與へるものが他にあることをわしは知らない、たしかにその者は善人であり、又善い軍人だと思ふ」と。クロムウエルの軍隊はこんな軍隊でありました。なんと今の軍隊とちがふ事でせう。

クロムウエルにとつては王軍と議會軍との戦は政治上の戦でなく、信仰上の戦でありました。王の専制に對する人民の政治上の自由擁護は末の末で、此の戦は神の民の信仰の自由を妨げるサタンに對する信仰擁護のための戦でありました。それ故王政を廢して共和政を建てる事は少しも念頭になく、一意専心、彼は神を信する者が此の世の政治に妨げられる事なく、自由に神の正義なりと信する處を行ひ、義しい生涯を送り得させるために戦つたのであります。そして此の信仰が勝利を得たのであります。

クロムウエルに取つては「英國民」と「神の民」とは

全く別物でありました。彼は後年攝政卿となつて自分で召集した議會に臨んでかく云ひました。

余は國のため種々なる任務に服した。……一生懸命一個の正直なる人間として神とその民の利益のため、又英國の爲めにその義務を果そうとした

と。彼は熱烈な愛國者でありましたが、それ以上に神の正義を愛し、英國民全體のために盡す以上に神の民のために身命を擲つて働いたのであります。彼は云ひました。

此の世の顯榮と事業とは求むるの價値無之候。若し主の御前に出づる望なかりせば、小生自身のうちに何の慰もなかりしならんと存じ候。小生この度の事(スコットランド遠征)を求め不申、まことに主に喚び出されて此の事に當るものに候。それ故主はその憐なる虫けら、弱き僕をしてその御意おんこころをなさしめ、我が代を成就せしめ給はんことについて聊か確信なき能はず候。

彼の軍隊は彼の軍隊でなくして萬軍のエホバの軍隊であり、神自ら之を率ひて聖徒の國を實現するため、彼を

召し、神の御用に用ひ給ふのであるとクロムウエルは確信しました。

まことに我らの仕事は我ら自身の頭腦より出でず、我らの勇氣と力とより來らず候、我らは先立ちゆき給ふ主に従ひ、彼の散らし給ひしものを集め、かくて凡てが彼より來ることの顯はれん爲めに候。

彼がどの位深く此の事を確信して居たかは彼の多くの戦の中最も有名であるダンバーの戦を見て、最もよく之を知ることが出來ます。

王軍と議會軍との戦は遂に王軍の敗北に終り、王政は顛覆し、王は斷頭臺の露と消えましたが、そのためスコットランド軍が王の子を英國王とするために侵入して來ました。クロムウエルは之を迎へ撃ち、スコットランドに侵入しました。然るにスコットランド軍の將レスレーは決戦を避け、クロムウエルが戦はふとすれば退き、クロムウエルが退けば進み、徐ろにその疲弊散亂を待ちました。クロムウエルの軍隊は氣候の悪いスコットランドの秋のみぞれに惱まされ、遂にダンバーに退きました。

ダンバーはスコットランドの東海岸に在り、丁度牛の角の尖端のやうなところであります。三方共海、南が開けて居りますが之は丘であつて、そこにはスコットランド軍が陣取りました。その數二萬三千人、クロムウエルの軍隊はその半分しかなく、然かも家郷遙かに長途の遠征のため疲勞してゐました。背後は三方共海、前方の丘には勝誇つた倍數の敵、彼には援軍の來る見込なく、全く袋の中の鼠のやうな有様でありました。

どうしてこれから脱する事が出來るでせうか。我らの生涯にもこういふ時が來る事があります。本當に行き詰つて二ちも三ちも行かなくなる時があります。かやうな時には誰でもあはてふためき、色を失ひ、悲觀して自殺をするのが落ちであります。然るに此の時クロムウエルは泰然自若、少しも動する色がありませんでした。彼をよく知つたチャールズ・ハーバーが彼を評して云ひました。

彼は本當に強い人であつた。戦争の暗黒なる數々の危険、戰場に於ける鬭ひ酬なるところ、他の者は皆生色のない時に、獨り彼のうちには希望が火の柱の

やうに輝き出た

と、何處からその希望が來ましたか。彼はダンバーの大戦の前日即ち千六百五十年の九月二日ニューカッスルの知事ヘースリツグ宛に書翰を認めました。

我等は甚だしき難戦なり、敵は我等の通路を遮斷し多分奇蹟なくしてはこゝを出ること出來まじ。部下は日々衰へ、彼等の病むこと想像以上なり、……：……されど賢き神のみ最善を知り給ふ。現在の我らの有様かくの如くなれど、我らの心強し、主に譽あれ。

まことに我等は主に多くの望をもつものなり、その御憐については今までも多くの經驗を致せり。云々神は必らず神の民を護り、その戦に勝利を得させ給ふであらうと確信し、眼前の大敵と自分の現在の窮境とを見て少しも怖れなかつたのであります。彼の此の勇氣と希望とは全軍の士氣を鼓舞しました。此の手紙を書いた翌日早曉、彼は全軍に命じ敵軍中に突撃をなさしめ、遂にスコットランド軍を粉碎し、其の半数近くを捕虜としました。これは戦史上奇蹟と云ふべきものであります。

次で彼はウースターに大勝を得て、敵を全く鎮定し、英國は清教徒の支配に歸しました。之に由つて大英國の基礎は出來たのであります。

我等現代日本の基督者は、之に由つて大に學ぶべきであります。我等は此の清教徒のやうに、現世の權榮を求めず、生活の安易を願はず、世人の賞讃を受けやうとせず、只神に對して義しくあり、何を神は我等に爲さんことを需め給ふかを探り求め、只それを實行することを我等の生涯の目的とする時、假令種々の患難に遇ひ、窮迫し、人々からさげすまれても、我等こそは將來の新日本國の礎石となつて居るものであります。今後百年、又は二百年、それが明白になると思ひます。現代に生きて此の位有意義な生活はありません。さらば我等はイスラエルの民の父祖アブラハムの如く、又北米合衆國の父祖ビルグリム・ファザーの如く、又英國の清教徒の如く、遠大なる理想と希望とを以て、約束の地に天幕生活をシクロムエルのやうに神と神の民とに仕へて一生を過そうではありませんか。

イエス・キリスト (九)

江原萬里

一六 審判主としての人の子 (中)

ダニエル

ダニエルも亦人の子について異象を見た。彼はバビロン王ベルシャザルの元年(ダニエル書は誰の作にして、何時代に書かれたものであるかは、ここに述べない)、

我夜の異象よほろしの中に見てありしに、四方の天つ風大海にむかひて烈しく吹きたり。四個の大なる獣海より上りきたれり。(七・二及三)

此の四個の獣の形はおのおの異なつた。第一は鷲の翼ある獅子のごとく、第二は熊のごとく、第三は四翼四頭の豹のごとく、第四は未だ見たこともなき異形にして十の角あり、

是は畏しく猛く大なる鐵の齒あり、食ひかつ咬み碎

きて、その殘餘をば足にて踏みつけたり。

此の四の獣は古來次から次にと、前なるものを倒して起つた地上の大帝國であつた。そして最後の國が最も猛であつて、それが前の帝國を滅ぼし、地上を支配した。多分之はアレキサンデル大王のマケドニアを云つたのであらう。然るに此の後神の審判が天から降つた。

我觀つつありしに、遂に寶座を置き列ぶるありて、

目の老いたる者座を占めたりしが、その衣は雪のごとくに白く、その髪毛はさらし潔めたる羊の毛のごとし……彼に仕ふる者は干々、彼の前に侍る者はべは萬々、審判すなはち始まり、書を開けり。

かくしてその獸は見る間に殺され、燃ゆる火に投げ入れられ、其の後に新らしい神の國が出現した。

我また夜の異象よほろしの中に觀てありけるに、人の子のごとき者雲に乗りて來り、日の老たる者の許に至りたれば、すなはち、その前に導きけるに、之に權と榮と國とを賜ひて諸民、諸族、諸音をしてこれに事へしむ。その權は永遠の權にして移りさらす、又その

國は亡ぶることなし。

ダニエルの觀た永遠の國の建設者である此の「人の子」は一體誰を指すか。ダニエルは之を説明して云ふ。今まで「至高者いとたかきものに敵し、その聖徒を惱まし」之を隸屬せしめた野獸の國に對して、神が「聖徒のために公義を行ひ」、審判が開かれて此等が悉く永遠に滅び失せた後に、「國と權と天下の國々の勢力とはみな至高者の聖徒たる民に歸す」と、即ち、人の子はイスラエルの民であつた。ユダヤ民族であつた。イエスの生れ給うた時代の前後、ユダヤ人の多くは、かやうな世の終末と最後の審判を待ち望み、周圍の大帝國が悉く罰せられ、彼等が神の選民として聖徒の國を建設する日の來ることを待ち、之に惚れたのであつた。

かくダニエル書の「人の子」は神の選民と自覺するユダヤ民族を指し、前に述べたエゼキエル書の「人の子」が、一般に弱い人間の子を意味したのと異なる。然かも此の兩者には共通なものが一つあつた。それは二つ共、今は種々なる惱の中に在り、見る影なき憐れな姿である

が、然かも此の人の子の中には何者か神に似通うた偉大なものがあり、天地の間何者にも比べることの出来ない高貴が潜在する。いつか神の榮光が地上に顯はれ、此の地上の罪惡が悉く燃ゆる火で焼き失せ、凡ての鱗滓が取り去られた後に、獨り今は秘れた此の純金のみが残り、之が外に顯はれ、永遠の國を嗣ぐと考へた點である。

エ ノ ク

イエスの出現當時、ユダヤ人の間に讀まれた書物にエノク書があつた。之は舊約聖書中に收められて居ない、所謂經外典の一つである。然かも當時の世の終り、殊に審判主として來る人の子の研究には缺くべからざる書物である。

此のエノク書によれば、「人の子」は最早エゼキエルの感じたやうな、神の崇高壯大に比して亡命流囚の弱々しい人間の子でなく、又ダニエルの異象中にあるやうな今は周圍の諸國民のため壓迫され、奴隸とされて居るユダヤ民族でもない。エノク書の「人の子」は神の大權の

右に座し、天地の創造前既に神の中に在し、やがてそれが此の地に顯はれて、全地の罪を審判する神の子であつた。最早そこに人間に纏はる一點の弱さなく、偉大、強健、神の榮光其の物である。

そこに我日の首をもつ者を見たり。その首は半の毛の如く白し。彼と共に他の者あり。その面に人の狀あり、その顔はいつくしみに満ち、聖なる御使のこととし。われと偕に往きて、此等の秘れたることどもを示したる御使に、われ人の子につき、彼の誰なるか、何處より來れるか、何故日の首と偕に往けるかを尋ねしに、彼答へて云ひけるは、「これは人の子にして、正義をもち、正義は彼と偕に宿る。彼は秘れたる凡ての寶を顯はすものなり云々」

エノク書は又言ふ。

太陽ともろもろの徴との創造られざりし前、天の星の造られざりし前、彼の名は諸靈の主の御前に名づけられたり。彼は義しき者らの杖となり、彼等をその上に樹てて倒れしめざらん。彼は異邦人の光とな

り、悩める者の望とならん。

以上はエテオピア本のエノク書中に在る人の子であるが、更に異本即ちスラボニツク本は、彼が此の地に神の大能を以て來り、大審判を行ひ、新天地を顯はすことを預言して云ふ。

聖き大なる者その住ひの處を出で

永遠の神地の上に、(然り)シナイの山に立たん。

(その幕屋より顯はれん)。

權能をもつてもろもろの天の上なる天より顯はれん。

かくて凡ての者恐怖に打たれ、

觀まもる者おののかん。

地の極まで大なる怖とおののき彼等を捕へん。

高き山は震ひ、

高き丘は低くせられ、

火の前の蠟の如くに溶けん。

地は凡て打ち碎かれ、

地に在るもの悉く滅びん。

凡ての者の上に審判あらん。

視よ、彼は凡ての者を審かんがため
聖徒の大衆を卒ひて來らん。

不虔なる者を滅ぼし、

彼等が神に敵して犯したる凡ての不虔の業と

不虔なる罪人らが彼に背いて云へる

凡ての惡しき言との

肉を罪せん。

之が當時預言者たちが其の出現を預言したダビデの子
たるメシヤとその建設する王國觀と相對立して、別個に
存在したメシヤ及びメシヤ王國觀であつた。預言者たち
は此の世は罪に滿つるも尙神の攝理の行はれるところであつて、神の恩恵と眞理とはやがて此の世に於て義しと認められると信じたのに相反して、此のメシヤ觀では、此の世は全く罪の巢窟であつて將來何の望もなく之は天からの火で焼き盡されるのみ、而してそれに代つて新天地が天から降る。その時、神の者とせられ、神の嗣業を受くべく選ばれた者のみが、聖き都新らしきエルサレムの民となる。世の終末、大審判、新天新地の創造、聖

徒の國の出現、之を成就する者がメシヤであつた。而してイエスは前に述べたやうに我は預言者の預言を成就するダビデの子たるキリストであると自覺し給うたと同時に又此の最後の審判主たる人の子としてのキリストであると確信し給うたのである。

イエスと人の子

イエスは己を指して「人の子」と呼び給うた。之がどう云ふ意味であつたかについては、學者の説は一定しない。或は前記のエノク書から來り、或はダニエル書から來たと説く者が少なくないが、私はそうは思はない。イエスは決して古書に在る言を其の儘己に移し、我はそれなりとするやうな模倣の人であつたとは考へることが出來ない。彼はダビデの子としてのキリストであると自覺し給ひ乍ら、然かも尙ダビデの子以上の者と確信し給うたやうに、イエスが己を指して「人の子」と云ひ給うたのは、イエス御自身の獨創的人格の意識から來たものに相違あるまい。

それと同時に、イエスは前に掲げたエゼキエル、ダニエル及びエノクの諸書に通曉し、其の中に在る人の子は已れ獨特の人格を指し、自分はその實現者であるとの驚くべき自覺を有ち給うた事も亦疑ふことは出来ない。

(二)、エゼキエル書に在るやうに、現在地上に於て枕するところもない弱い人の子の中に尙神の子たる性質のあること。

(三)、ダニエル書に在るやうに、今は神に敵する大帝國が此の地球を我が物顔にするが、やがて大なる審判が開かれ、人の子は雲に乗つて來り、聖徒の國を出現せしめること。

(三)、エノク書に在るやうに、その人の子は人にして人に在らず、世の創造前から、即ち永遠に神と偕に在り神性を有し、之が世の終末に際し地上に顯はれ、罪を審判き、義者を復活せしめ、人の罪のため空虚に歸せしめられた萬物を復興し、新天地を出現せしめること、實にイエスは我はその者なりとの驚嘆すべき自覺と確信とを有ち給うたのである。

(以下次號)

イエス傳について(上)

江原萬里

我等はイエスの御生涯について幸にも四つの傳記を有つて居る。新約聖書の初めに在るマタイ傳、マルコ傳、ルカ傳及びヨハネ傳各福音書がそれである。爰に福音書と云ふのは、原語にてユーアンゲリーオンと云ひ、『喜ばしい音づれ』を意味する。我等に最も喜ばしい音づれは何か。我等がかくあり度しと願ひ、又かくあるべきだと思ひ乍ら、然かもさうあり得ない我等の不幸、悲痛の現状の根本原因の除去に關する神からの音づれ以上の嘉信はあり得ない。それ故パウロは云つた。『我は福音を恥とせず、この福音は……凡て信する者に救を得させる神の力なればなり』と(ロマ書一・一六)。

然るに此の救を得させる神の力は誰に由つて我等に來たか。それはイエスであつた。パウロが『凡て信する者』と云つた信するとは、イエス・キリストを信する信仰の

ことである。我等はイエスを信じて我等を不幸の根本原因である罪から救ひ出される。キリストは我等の罪のため虚無に服せしめられた萬物の復興者であり、新天地の出現者、而して新らしき神の民即ち聖徒の國の建設者であり給ふ。それ故、我等の救に關する福音は一轉してイエスの御生涯を記した書物を指すやうになつた。新約聖書の初めの四つのイエス傳を福音書と呼ぶのはそのためである。マタイ傳福音書とはマタイの傳記でなく、マタイの傳へたイエス傳の意である。

四つの福音書は皆イエスの御生涯を語る。然かもそれは各々の立場から、各々の目的を以て語つたものである。之がため四書それぞれ特色があり、同一ではない。然るに四書中最初の三書の間の相違は、之と最後のヨハネ傳との相違程大ではない。ヨハネ傳から見れば最初の三書はそのイエス觀、その書の材料に共通なものが甚だ多い。此の故に此等最初の三福音書、即ちマタイ傳、マルコ傳又びルカ傳を『共觀福音書』と云ふ。

然らばヨハネ傳が共觀福音書と異なるところは何かと

云ふに、そこに書き出されたイエスは「神の子」たる光輝が強く、その光輝のため共觀福音書が傳へるやうな「人の子」の姿が稍稀薄になつて居ることである。

ピリポ云ふ、「主よ、父を我らに示し給へ、然らば足れり」。イエスは言ひ給ふ。「ピリポ、我かく久しく汝らと偕に居りしに我を知らぬか、我を見し者は父を見しなり」。(一四・八、九)。

未だ神を見し者なし。ただ父の懷裡ふところにいます獨子の神のみ之を顯はせり。(一・一八)。

我等は何處を見ても肉眼を以てして神の御姿を見ることは出来ない。或る天文學者は云つた、自分は一生望遠鏡で天ばかり見て居たが、まだ一度もそこに神を見たことがないと。彼は天文學者として立派な學者であつたが神に關しては愚者であつた。我等は只ナザレのイエスを見て神を見る。彼の言を聞いて神の言を聞き、彼の御業を見て神の御業を見る。彼は神の子であり、神が人となつて我等に顯はれ給うた者であつた。ヨハネ傳が特に我等に語るところは之である。

然らばヨハネ傳に對して共觀福音書が特に我等に傳へやうとするイエスの御生涯はそのどの方面であるか。それは完全なる人、即ち『人の子』イエスである。我等は此等の書によつて千九百年の昔、地中海の東岸ユダヤの地に生れ、民衆を教へ、その惱み患ひを醫し、十字架上に死し、死から甦り給うた歴史的人物なるイエスを知ることが出来る。我等の最大の幸福の源なるイエスと我等との關係を知るには共觀書の研究に若くはなく、イエスと神との關係を知るにはヨハネ傳の研究を要する。然し乍ら、研究の順序からせば、歴史的人物としてイエスを知ることが、神の顯現としてのイエスを知るよりも先であらねばならない。

共觀福音書について『史的イエス』を探求するに當り我等が先づ確信し度きは、一體此等の書は本當の事が書いてあるかどうかである。若し筆者が實際イエスに師事して其の教を受け、其の御業を目撃して、それを書いたものであるならば信を措くに足る。然らずして、只傳説

を集めたものならば、其の記事は史的價值乏しく、怪しい。

今共觀福音書を精讀する時、顯著なる事柄は、三者殆ど同一の記事の多い事である。只其の一書にのみある記事は全體の三分の一しかない。元來記事が相違して居るところは、その史價を損するものでない。若し小學生徒の數人に遠足の記事を書かして見よ、どんな單純な事柄でもその叙事が同じである事はない。若し同文同語の場合は何か他の原文あり、それを手本とした事が推察される。然るに共觀福音書中重複の記事は全體の三分の二以上であつて、然かもそれは文章まで同一な箇所が多い。

若しその文章が只イエスの教だけであるならば、それは怪しむに足らない。何となればそれは直接イエスの唇から出たものであらうから。然るに同文は只單に教に留まらず、事件の記事についても同一なるものが多い。それ故イエス傳には何か他に原本があつて、之を基として現在の共觀福音書が出来たものと想像されるのである。

(以下次號)

奴隸道即王道

山田幸三郎

ニイチエはギリシヤ、ローマ乃至はゲルマン民族の生活に現れた戦争とか残酷とかの悪徳を權力への意思の發現として推賞し、之こそ眞の君主道徳であり、超人の道なりとして謳歌し、基督教を以て奴隸の宗教となし、柔和、服従等の美德を奴隸道徳として排撃した。

實際山上の垂訓とか、ロマ書十三章にパウロが教へた權威への服従とか、或はペテロ前書二章十三節以下にペテロが説いた従順の教訓などを讀むと、一見いかにも卑屈に見え、基督教は盲従を以て金科玉條となしてゐるかの如き感がないではない。此等の箇所述べられてゐる權威の尊敬、權威への服従は之をホーマーの叙事詩に歌はれてゐる英雄魂とか、キルヘルム・テルの傳説に有名な革命的精神とかに比較して、公平に白紙的態度を以て何等の成心をも抱かないで觀察する時、前者は所謂資本

主義によつて養はれたる餘りに甚だしき奴隸道なると共に、後者は雄偉とか壯烈とか自由思想といふ如き男性的のイデオロギーを理想化し具現したる君主道にして、我らの心が前者よりも遙かに強く後者にひきつけられる事何人も否み得ぬ所であらう。前者の屈從的態度が不愉快であり、後者の奮闘的態度が痛快なる事は『いやさきの不従順』によつて樂園を逐はれた者の子孫たる否とに論なく、誰しも痛感する所である。

乍併聖書の中の此等の章節を注意して精讀し玩味し、仔細にその精神を檢討して見るならば、それは決してニイチエの惡罵した如き奴隸道でもなく、我等の第一印象に感じたる如き卑屈な暗いものでもなく、ニイチエの唱道したる君主道に遙かにまさる正々堂々たる誇らしき王道であり、明朗を愛する精神の結晶たる事を知るであらう。

先づロマ書十三章に就て見るに、その第一節は一見した所いかに上なる權威に對して媚びへつらつてゐるかのやうに思はれるけれども、パウロの言ふ『權威』なる

ものが、いかなるものなるかもその半面に暗示されてゐる事は誰人も見落さないであらう。従つてキルヘルム・テルの傳説に出て来るゲツスレルの如き人物は、たとひ皇帝の任命による代官なりとするも、パウロの眼から見れば『權威』の列に加へられるべき者でない事は明かである。否、むしろゲツスレルが人民に對して取りし態度の如きは、陛下の赤子ともいふべき良民に對する皇帝の本旨ではなかつたのである。

更に進んで第三、第四節を味讀するならば、パウロが謂ふ所の權威がいかなる性質のものなるかは、一層明瞭に肯定的積極的方面から闡明せられてゐる。賢明なパウロは『權威』なるものの消極的方面には故意に言及する事を避けて之を讀者の想像に任せてゐるが、之は光の性質を鮮明に叙述する事によつて、暗の性質を言外に示唆すると同じ筆法である。特に注意すべきは、彼が服従を説くのは單に權威者の怒りを恐れる爲ではなくて、『良心の爲』だとの一言を附加する事を忘れたかつた點である。こゝに彼が力言する服従の美德の積極性があり、服従は

決して卑屈や盲従など、同一視すべき惡徳にあらすして、常人の理想たる雄偉、壯烈、男性的、奮進的、自由思想等の美德とも、毛頭背馳せざるのみか、却て此等の美德は、服従すべき場合には勇敢に従順に服従し得る如き人物にして始めてよく實現し得るものなる事を暗示してゐるのである。

カライルが幼かりし時、賢明なるその母は彼に訓へて、決して他の子供と喧嘩するやうな卑怯な眞似をしてならぬと戒めた事があると聞いてゐる。柔和も服従も良心の爲である。良心に反して迄も盲従せよと言ふのではない。否、却て積極的に良心を満足させる爲に柔和なれ従順なれといふのである。従つて權威の命ずる所と良心の聲とが一致する場合に限られてゐる事言ふ迄もない。否、パウロは、良心の聲に反するやうな事を強要する如き權威は、萬一それが存在する事あるも、斯かるものは似て非なるものとして之を非認したのである。

この趣旨はベテロに於ても同様である。制度にしる上長官にしる、それらは皆善を行ふ者を保護し助長する事

を以て自明的任務なりとして、不良なる制度とか上長官といふ如きものの存在は、想像だもなし得ぬ所なる事を行間に暗示して居る。

奴隸たる者への訓戒に於ては、主人が『情なき人物』なる場合もあり得る事を想像しては居るが、併し之とても、かゝる主人に對しても從順なれとペテロが勧めたのは、この主人が單に『情なき』といふのみで、積極的にその奴隸が善行を爲さうとするのを妨げるとか、或はその奴隸に向つて不義不徳を強制するやうなとは異つて居る。即ち之はパウロが『爲し得る限り凡ての人と相和げ』(ロマ書十二の十八)と訓へたのと相似て、良心の聲に反して迄も盲從せよと教へたのでない事は明かである。

それと共にペテロが『情なき主人にも從へ』と訓へたのには、他に積極的意義の存する事も看過してはならぬ。實に我らは良心に反せざる限りかゝる主人にも從順なる事によつて我らは『受くべからざる苦難を受け、神を認むるによつて憂に堪へる』といふ基督者として推賞すべ

き美德を體驗する事が出来る。又かかる美德はかゝる境遇にある場合最もよく養はれ發揮せられ得ると共に、我らの信仰はかゝる環境に於て最もよく練磨せられるものである。ペテロは實にかゝる方面から見、かゝる境遇を絶好の機會として利用する事を訓へたのである。

即ちこの一句はそれが持つ本來の内容よりも、寧ろその副産物の方に一層の重要性があつたのである。實に『信する者には凡てのこと働きて益をなす』のであつて、信仰的經驗に富める大使徒の言として傾聴に値するものである。我等は靜かに反省して見る時、自己の主人なり上長なりが自分に對して『情なき』振舞をすればとて、之に反抗する事を我らの良心が積極的に我らに命するやうな場合とては殆んど無いのである。それは悪行をなせ罪を犯せと主人から強要されるのとは性質が異なるからである。

要するにパウロもペテロも決して我々に向つて謂はれなき奴隸根性を推賞し、奴隸道徳を説いたのではない。否、最も健全なる實際生活上の指針を與へたものである。

若し奴隸道德なりとすれば、それはニイチエの意味に於てのものに非ずして、ヨハネ傳十三章十四節に言はれたる如き意味のものであり、我らの良心にさゝやく神への奴隸道である。換言すれば之はニイチエの所謂超人道德や君主道德には反對するも、明朗なる眞の意味の王道にして、雄偉、壯烈等の道德的理想を實現し得るまことの王者の道なのである。

見よ、無抵抗主義に徹底したる主イエスの生涯を。あらゆる迫害の中にあつて正當なる權威への服従に終始一貫してその信仰に殉じたるパウロやペテロを。ニイチエの超人の理想を具現したともいふべき暴君ネロの如きをパウロやペテロと對比して見る時、何れが雄偉であり、壯烈であり、男性的であり、明朗なるかは、蓋し言ふを要しないのである。

相手が不義不正なればとて我ら自身も之に向つて不正不義なる方法を以て反抗するは『良心の爲に』する所以ではない。いかに殘虐不法なる制度の改革とは言へ、我らは自己の良心を賣物にして迄之に没頭する事を神から

要望されては居らぬ。神は我らを滅亡から救ふ爲にその獨子をすら與へ給ふたのである。然るに我らが自己の良心に反して迄改革とか社會運動とかに熱注するならば、それは當然我らの滅亡を將來し、神の聖旨に反する結果になるや必然である。

萬一不幸にして我ら不義不正を爲すべく強要されるやうな場合には、我らの取るべき道はたゞ『否!』の一語を以て平和的に意思表示をなせば足る。それ以上はパウロの言へる如く不必要である。而して斯かる場合の單なる『否!』の一語は斷じて反抗と稱すべきものに非ずして従順の道に背馳せざるのみか、却て之を要求する上長に忠なる所以である。之によつて上長の嫌忌にふれる如き事あらば、それこそペテロが奴隸たる者に勧めた言や山上の垂訓の八つの祝福を味讀すべき日が恵まれたものとして感謝して受け、榮光を主に歸したきものである。

七年戦役を初めとして度々の戦争によつて國威を當時の世界に輝かしたプロシヤの賢君フレデリック大王は、文化教養の方面に於ても卓越せる偉人であるが、この大

人物の言として傳へられるものに

『國王は國家の奴隸なり』

といふ一句があるのは、誠にゆかしき限りである。彼は勿論嚴密なる意味での基督者ではなかつたらうが、多數の人を使役した實際家として、使ふ者よりも使はれる者の尊さをその豊富なる經驗上から熟知してゐたに違ひない。この認識あつて始めて、支配者として國家に君臨する事よりも寧ろ奴隸として國家に奉仕する事こそ眞の王道なりといふ尊き自覺と矜持とに到達したものと思はれる。

ドイツの詩人ゲロツクの童詩に、カルル大帝が或時小學校へ臨幸された事を歌つたものがある。大帝は牧羊者が柔和な羊と喧嘩好きな山羊とを右と左に分つ（マタイ傳二五章參照）如くに、『貧民の子供や奴隸の子供等』を右に、權力階級の子供を左に分けて、嚴かな聲で宣して曰く、

『朕の國に於ては心が大切であつて、着物は問題にならない』

と。こゝにも稀世の名君は使はれる者のうちに宿る尊きものを發見して之を稱揚してゐる。

聖書の訓へた奴隸道、ニイチエによつて惡罵された奴隸道徳——神への、基督への、そして神と基督とを通して人類及び隣人への奴隸道——奴隸民族たるユダヤ人の眞の王イエス・キリストによつて確立された奴隸道——之こそは朗かな眞の王道である。

ダンテの『神曲』に於ける淨罪界の道の如くに此の道は狭く細く窮屈にして峻嶒である。併しその先には無限の光の王國が展開してゐる。

柏木通信 (第三十一信)

齋藤宗次郎

柏木の近状 神は其愛する者を鞭うち給ふ事を知り患難は忍耐練達希望を來らする神の恵みなることを信する基督者に取りては、主に在る日々生涯に勝利を感じ涙の時には喜びありである。随つて四方より報じ來る兄弟等の音信も其外形色彩の如何に拘らず、悉く嘉信吉報として響くのである。最近神戸の那須利三郎氏は老體を提げ來りて、長き信仰生活の實驗と熱烈なる福音證明の報告をなすを聞いた。祈りの人たる好本督氏は世界大戰後歐洲の諸所に起りし青年の信仰的活動の事實と、重任を負ふ日本の基督者の潔められし生活を送らざるべからざるを語るを聞き、竹内茂代女史が其夫君と共に研究せし内村先生の心臓の解剖的新發見は感謝驚喜すべき事實なるを述ぶるを聞き、鈴木虎秋氏は學界に於ける哲學心理學倫理學が其歸結を生命に求むる新傾向に至りしを傳ふるを聞き、其他市の内外又は地方各地に起る小にして大なる覺醒的事實は政治軍事思想の變調を外にして根蒂深く現はれ來る報に接しては、恰も善信の洪水に遭ひし

感があつた。狭き編輯室の一隅に蟄居するも心は宇宙に充盈する神の力を擲取して暗愚凡庸の此身に餘る恩寵に感涙なきを得ない。イエスキリストを通して神を仰ぎ世を觀る時には、始めに神之を善して觀給へりとの達意の特權に浴することが出来る。

『月下美人』を訪ふ 此樹の學名はエビフィルム、オキシベトラ、珍奇なる熱帯植物である。數年前臺灣の或る兄弟が、多年福音の響應に預りし恩誼に酬いん爲め其一本を内村先生に贈呈し來つた。先生は欣んで其好意を受け、本州に於ては比類なき其莖葉の發育の狀に目夕神の愛と力とを味はれた。然しながら異域の越冬に枯死の厄を豫想せられ、其安全なる成長の途を執ることに就て余に依託せられた。余は學校か植物園かと色々思ひめぐらせし結果、東京府農事試験場に讓與するを最良の法と考へた。先生もこれに同意せられた。余は一旦自宅に移して暫時之を賞し、一日纖婉なる數尺の莖幹を擁護しつゝ立川なる試験場に運んで温室の一點に納めた。新たに珍客を迎へし所員も意外の富と満足とを感ずるものゝ如くであつた。爾來毎年初夏の候に彼女の安否を尋ね來つたが、今年も亦機を得て彼女を多摩河原の温室を訪ふた。主任小山田氏の案内により樹下に歩を進めて氏の懇勲なる説明を聞いた。痛快々々、幹は大れり丈は伸びた

り、渠の若き一本の親木は今や十本二十本の愛すべき子孫に圍まれ、腫子の如き葉端の花蕾を以て余を懐かしむ様であつた。花は盛夏満月の夜、初更俄かに蕾を解いて数寸の花冠を飾り、四邊に薰香を放ち、我が命數こゝに竭くと僅々四時間にして希望を中空の月光に投じ、半夜人知れぬ間に可憐又勇壯にも謝花の雅潔を呈するのである。彼女は先生の愛に因り、時に適ふ氣温の中に優遇を享くる身となつた。そして年毎に繁殖を見、遂に開花の誇りを示すにまで至りしことは、恰も先生の遺せし偉業の日に日に人心を月光ならぬ神の光明に向はしめ、十字架の下に贖罪に依る瑞花を開かしむるに至ると相似て甚だ床しさを感じた。花の準備成るの時改めて報ぜんとの約を受けて彼女と其管理主任とに別れを告げて去つた。

日曜の集會

内外に迫る敵と戦ひて幾多の痛手を身に負ふも、主にありて凱歌を奏する我等は、更に沙漠に於ける緑林に入るの思ひを以て安息日を迎へ、兄弟姉妹信仰と望みとを一にして相愛しつゝ神に在る憩ひを持ち得るは何たる喜びであらう。神は又選びし者に聖靈を賜ひて尊き糧を飽くまで我等に與へ給ふ、ア、未だ神を識らぬ人々に對して何と告ぐべきか。

世界歴史上内村先生の位置 齋藤宗次郎
聖書に於ける葡萄の研究 大賀 一郎

土と基督者
ルカの人物と行績
基督者の戦ひ

寶田 一 藏
山 榊 儀 市
鈴木 敏 元

好本督氏歡迎會

遙かに祖國を眺め、其現狀に對して責任の重きを感じ、到底黙し難しとして英國より歸り來りし同氏を歡迎するは心ある者の爲すべき事である。氏は日英兩國間の精神的融和に數十年の努力を捧げし基督教の紳士であつて、又深く日本否世界の可憐なる聾啞盲人に同情し其慰安の途を講じ來りし仁である。余は五月十六日杉並の秋元梅吉氏宅に開かれし歡迎會に數名の教友と共に出席した。世界の動向趨勢を正視せる氏の意見を聽くは我等の要望であつた。一、英國の識者間には彼等の祖先の罪惡を感じ、徒らに之を責むるに非ず基督者各自の責任なりとて悔悟會を起し、神と人類の前に謙遜の態度を執るに至りし事。一、牛津大學の思想の變化として現今の學生の多くは眞理と平和の爲に献身の活動を始めし事。一、マグドナルド氏は議會に臨む前に家庭の祈禱會を開きて準備せし事。一、ポールドウイン氏は我等の爲す所は神の國出現の一助たるべきものであると告白せし政治家の稱すべき態度。一、共產主義者の言論に對する英政府の寛大なる措置の効果。一、香港に於ける一平信徒岡氏は支那人の苛酷なる壓迫排撃の下に、

單身十字架を負ふて無抵抗主義の愛を現はせし結果驚くべき光輝ある現象を見るに至りし事。一、上海に於て猛烈なる排日思想の間に只一つ全支那人の肯定敬服其頭上に炭火を置かるゝと感ずることは、日本の盲人が衷心より隣邦の民を愛して點字の天路歷程を多分に贈與せしことである。一、日本に歸りて怖しく感ずることは、此歴史有つて以來の危険期に際會しながら、國家の天職も國民各自の責任をも自覺するの様子なく、空吹く風として無關心の態度にあることである。一、今や我等基督者は此機に於て國家國民の罪惡を己が責任と感じ、早朝の清淨なる時間を用ひ健全なる心身を捧げて切に祈り且つ聖書を研究し、以て常にキリストと共に働くの急務なる事等の談話を傾聴せし後我等も各々所感を述べ或は祈りて、風薫る初夏の一夜を靜かなる武藏野の一角に於て送り、九時半散會した。

東山莊の集會を語る 神よ御心を爲させ給へ！此深遠なる一語の祈は、聖意を世に賜ふ準備として神の愛する者に授け給ふ所のものである。所謂發起人なる者は代表者として選ばれし責任を自覺し、信と愛と誠實を以て其聖圖の進行實現に當るべきである。五月七日我等數名柏木に集りて下相談に大綱を編み、其十五日夜今井館に於て委曲相諮つた。名古屋畔上大賀塚本藤本金澤石原

久山坂田鈴木望月藤澤余の十三人互に意見を述べ居る間に、今夏開かるべき會合の趣旨目的の唯事ならざるを示され、千數百年の過去に對する解決の劍を握ると共に、主の日に向ふ先驅者の旗旗たるの感を懐かされては、ガリラヤ湖畔の春草に坐して福音を聴くの歡びと、雷霆轟くホレブの山巔に立つの畏懼の感を禁じ得なかつた。十時半坂田氏は聲高く祈つた。一同も力強く和した。神の司宰し給ふ世に在りて、主に在る我等が、父の御心を爲さんとする御殿場の會合を夏期聖書研究会と名けた。天下同信の友よ、小さき群よ、至純の信仰に立ちて主の導き給ふ所に隨順せられよ。

棕櫚の葉影に 人生の行手を凡て主に委ねて其御手に従ふの嬉しさよ。今日は又洗足會の集りを與へられて菝萐なる藤本兄宅に兄弟十七名キリストを中心に仰いで樂しき時間を送ることを許された。令嬢望さんの晚餐の献立は見るに美しく食ふに善くあつた。我等は之を味ひつゝ、暫時清談の流れに掉した。馳て我等は食堂を去つて棕櫚の葉影の涼しき應接間に對坐した。先づ三位の神を頌め讃へて後、基督の僕は弱く見ゆれど強き理由。信者には萬事が感謝の種。我等が播く福音の種子の發芽は神の定め給ふ時にあり。人間の眞價は主の降世によつて知らる等の感話は何れも深く味ふべきことであつた。定刻九時閉會。次回の會場を決定して散じた。

身 邊 漫 筆

○日曜日の集會はいつも恵まれた集會であることを感ずる。講師は皆驚くべき熱誠である。其の語るところに力があり、眞理と恩恵とがある。かかる友が來り援け、毎日曜日此の會が開かれて居ることは大なる感謝である。次第に鎌倉人にも知られて來るらしい。

○會には舊き親しき友の顔を見た。九州から上京の釘宮一家族も出席した。殊に私を感動したのは今泉源吉君夫妻に扶けられて、腰が弓のやうに曲つた七十九歳の母堂が出席され、今後も出席し度いと云つて居られる事である。母堂は一昨年腰を打たれて臥され、漸く此の程外出が出来るやうになつたので、その最初の歩を我等の集會に向けられたのである由。又來會者の一人から熱誠に溢れた長文の書翰を受け取つた。其の一節に、

五月二十一日は私にとつて何と云ふ幸な日であつたで御座います。私は此日恩師藤井武先生以後現代日本に於ては再び期待すべくもなかつた貴きものを見出したのであります。藤井先生の召されし後私は塚本先生の聖書研究會へ出席して居ました。其の頃から聖知誌を毎月購讀する他に畔上、黒崎、金澤諸先生の雜誌も時々購讀しましたが、先生の雜誌は一

度も拜讀致しませんでした。……毎月獨立堂書店へ所用があつて行き、その店頭に並べられてある多くの聖書雜誌を片端から拾ひ讀みしながら、聖書の眞理誌のみは手に取りませんでした。……鎌倉講話會のことを知りしたのは聖書知識五月號の廣告によつてであります。この會に出席する心になりましたのは、すでに何度も講演を承つて居りました三谷矢内原兩先生を目的にしてでありました。若しこの兩先生の御名前が見えなかつたら私はここへ出席しなかつたであります。……鎌倉の集會に出席して私は非常な責任を感じます。ここには聴くのみでは濟されないのであります。ここには必死の戦があります。ここには先生の血が流されてあります。前後八年に涉り最も善き師に就て學びし聖書の眞理が眞に私の生命になつてゐるか否かを問はるゝやうに思ひます。思へば恐ろし處へ導かれたもので御座います。

彼は嘗て業務上一眼を失ひ、そのため最高の手當として月給の六ヶ月分三百圓を與へられた。彼は之を全部我等の集に提供し度いと申出た。近來私はこんなに感動したことはない。その熱誠がどの位我等を勵ますかわから

ない。然し乍ら今此の扱られた一眼を受けるには餘りに貴重に過ぐ。他日最有意義に使用する途が備へられて居るであらうと云つて、私は強ひてその申出を拒んだ。

○各講師が皆熱烈である如く、聴者も亦恐ろしく眞剣である。此の會の主宰者たる私も亦必死の覺悟で創めた。此の會を開いた四月私の健康は近來にない最悪の状態に在つた。私は文字通り死を覺悟して起つた。然るに神は尙私に用ありとし給うてか、六月の今日私の健康は却つて良好となり、一時減じた體重も最近量つて見ると以前より少しではあるが増して居る。それよりも増したのは私の熱心と喜悅と希望と感謝である。會は少數でよい。大講演會必らずしも生命を供しない。小さき集に於て本當の生命の言は説かれる。

○五月十四日の日曜日には山田君が別載の『奴隷道即王道』について語り、次で私が『英國の清教徒』について語つた。二十一日は私が先づ『マタイ傳の目的』について語り、我等の本當の希望は現世界の大神判の火の彼方、新しい天地に新生命を獲得する事である。そのためには現世に於ける何物をも犠牲として惜しくない。果して我等は救はれることの確信があるかと聞いた。次で矢内原君が『十字架の活殺』と題して語つた。同君が今まで此の會で語つた要領は同君の發行する『通信』誌五月號に

在る。花房飛虎二君が先日私に、近來こんなに感謝を以て讀んだ文章はないと告げた。ついて讀まれたし。

○五月二十八日は山田君が『信仰と病氣』について病氣の根本の原因は我等の罪である。信者は誰でも之を否認出來まいとて我等の良心に迫り、その罪から救はれる唯一の途は信仰であると云つた。次で私が『クロムウエルの信仰』と題して彼の偉大なるハートについて語つた。彼は此の世の顯榮を願はず、神と神の民とに仕へ、そのために苦しむことを唯一の善とした。彼の願はキリストの榮光の復活に與り、來るべき世に甦ることであつた。然かも生前死後最も甚しく誤解された彼こそは今の英帝國の基を築いたものであつたことを述べた。これで前後四回、二ヶ月に亘る私の開會の辭が終つた。こんな長い開會の辭があるであらうか。

○六月四日は私が先づ、マタイ傳は基督教がモーセの律法に優ることをユダヤ人の基督者に證するため書かれたものであつて、此の中五ヶ所に集められた教訓集はモーゼの五書に對するものであると述べ、次で三谷君が『預言者の興亡史論』と題して、ダニエル書の預言と當時の歴史とについて語り、人類の歴史もその將來も悉く神の御手に在る。神は正義を以て之を攝理し給ふ。故に神を知つた者は過去の歴史の意味を悟り、又將來を預言し得

る。我等の生涯の最大事は神の正義に絶対に服従することであると云つた。いつも意味の深い話である。

○六月十一日は私が先づ起つてマタイ傳第一章の講義をした。ところが時計が借り物であつて時間を見違へ、且つ話に熱中して時の經つのを忘れ、前座が主座の時間を奪つて仕舞つた。然かもそれに気がつかず、山田君が起つて今日は時間がないので別の事を話しようと私の話を補足されたので始めてそれを知つて吃驚りした。本當に同君にすまない事をした。然るに同君は少しも悪く思はず、今日は君が全部やられるつもりだと思つたと後で私に云つた。何と云ふ紳士の心情であらう。

○私はこれからはマタイ傳の講義をするつもりである。そのため最近再びその研究を始めた。興味津々として湧き出る。近來こんなに聖書に興味を覺えた事はない。此の数日私は興奮してよく眠られなかつた。夜半目が覺ればマタイ傳に在るイエスの聖なる御姿が私の心魂を奪ふ。寝ても覺めても此の日頃彼のことのみを思つた。彼こそは私の生命の源、それ故聖書は私の生命の書である。エラスムスが云つたやうに私も云ふ。「私は一生を聖書の研究に用ゐやうと決心した。この書の中に私の喜悅と生命の全部がある」と、然るにこんな貴重な書物を解する者の少ないのは残念な事である。今の世の人は娛樂を

求め、學者と學生とは知識を求める。されど彼等の心の中には何と云ふ大きな空虚がある事よ、誰一人本當に心からなる歡喜はなく希望はない。恐ろしい不安と焦慮に襲はれ、毎日無意味な日を送つて居る。

○近來學校教育の効果の擧らないのを見て教育の根本的刷新の叫が上つて居る。今の大學卒業生は卒業後裝飾以外殆どその僅かしか用のない知識を詰め込まれて、父兄の粒々辛苦の學資と青年時代の貴重な時間とを之がために浪費して居るのである。注入の知識は直き忘れ去られる。一生涯の活動に役立つものは人格とその根源なる神である。然かも文部省も大學も之を思はない。今は研究發表の自由が問題になつて居る。然るに眞の自由は我等の良心が何者にも拘束されない自由にして、之は神に義とされて始めて獲得し得るものである。此の自由が人間の活動の根源である。今の世の自由は放蕩息子子の自由である。我が國に若し預言者が出たらばかく叫ぶであらう。

主筆より

鎌倉の講話會は七月九日(第二日曜日)を以て終り、暑中は休みます。そして九月十日(第二日曜日)から再開します。

開會は午前十時からです。但し最初十五分間はクエーカ一のするやうに各自靜かに黙禱し度いと思ひます。十五分に至つて開會の讚美歌を願ひます。なるべく有効に此の十五分間を用ひ度くあります。

左記の書信を受取つて感謝しました。

御惠のもとに此宵、第三回聖書の眞理の集を持つことの出來ますのを深く感謝致します。聖書の眞理によつてつながる吾等兄弟が限りない欣をもつて、「イスラエルの宗教」を「個人的靈的、それ故に世界的普遍的宗教への偉大なる變化」をなさしめた預言者エレミヤについて江原先生の著書を通じて教へられ語り會はふとして居ます。

昭和八年六月一日夕 住友俱樂部にて

池須健三、鈴木忠明、關原多喜知、好川増輔、
武林鶴夫、小西梅太郎、神原寅之助、杉浦重彦、
木津雅次、宮崎又信、田中良雄(各自署名)

追て各自の語られた處をまた別便を以て大要申上る事に致します。

聖書の眞理誌が仲立してこう云ふ集が他にも出來るやうになつたらば、主筆としてこれ以上の喜はありませんどうぞ讀者の方々一同、聖書の深い泉を汲むため、各自の信仰を勵ますため、而して神から與へられた天職を明確に自覺し之を果すため、こう云ふ會が各地に起るやう祈つて下さい。私も亦そのため出來るだけ勉めます。

こう云ふ事の爲に聖書の眞理誌が役立ち得ば、私の本望であります。そのために私は一生を献げて之を發行して居るのであります。若し友人に紹介のため本誌が入用でしたらば、舊號の殘本がありますから遠慮なく本社に申込み下さい。申越された宛名に一部宛御送りします。

最近讀者の方が友人に紹介されると見えて、聖書の眞理の讀者が次第に増して來ました。振替で新らしい讀者の名を知る毎に、何とも云ひ得ない親しみを感じ、新しい兄弟が出來たと云ふ思です。本誌は主筆と讀者との共同事業です。之を以て我が國に福音を普及し、新らしい日本を聖書の上に建設しやうではありませんか。どうぞどしどし友人の方々に本誌を勧めて下さい。

夏期聖書研究會

日時 八月九日(水)午後五時開會

同十四日(月)午後一時閉會

場所 静岡縣御殿場町東山、東山莊

講師、研究題並日程

十一日午前 石原兵永 コマ書大觀

十一日午前 塚本虎二 共觀福音書問題

十二日午前 金澤常雄 エレミヤの内の生活

十三日午前 昨上賢造 イザヤ書に於ける主の僕

十四日午前 黒崎幸吉 聖靈の研究

特別講演 大島正健、淺野猶三郎、大賀一郎、其他諸先生(演題未定)

午後には自由時間とし夜間は特別集會を催します

費用、會費金貳圓、宿泊料全期間

金拾圓(全期間ニ滿タザル時

ハ一日金貳圓) 東山莊ニ宿舍

アリ、婦人宿舍ノ設備モアリ

申込 會費金貳圓ヲ添ヘ七月末日迄

ニ東京市淀橋區柏木四丁目九

一九 今井館内(振替東京六

三九五三番)

夏期聖書研究會事務所へ申込

マレタン

江原萬里著書

宗教と國家 定價一圓八十錢

送料 十四錢

——エレミヤ記の研究——

聖書的現代經濟觀 定價一圓二十錢

送料 八錢

小泉久雄著(丸善版)

日本刀の近代的研究 定價八圓

送料三十二錢

著者は海軍大佐、此の方面造詣深く、多年の苦心遂に此の書となつた。新界に貢獻するところ大であらう。

大久保 敬著(明文堂版)

新時代の農家經濟 定價一圓二十錢

我が國の農家の有様を知り、之をどうしたらば良きかを考へるのに好參考書である著者は長く専門的に之を研究したる人、所論信頼するに足る。

聖書の眞理定價(送料共)

一 部 二十錢

半年(六部) 一圓十錢

一年(十二部) 二圓十錢

海外一年 二圓六十錢

拂込は聖書の眞理社(振替東京六三三七五番)へ。獨立堂にてもよし

昭和八年六月廿八日納本
昭和八年七月一日發行

編者 神奈川縣鎌倉町扇ヶ谷三四三
編輯印刷 江原萬里
發行人

發行所 東京市澁谷區向山町九七
聖書の眞理社

印刷所 東京市神田區三河町三ノ四
今井印刷所

發賣所 東京市淀橋區百人町二丁目二五四
獨立堂書房
振替東京二六八番